

流行衣服の採用時期に基づく採用者カテゴリーについての検討（第3報）  
採用時期に関する自己評価のアイテムが3カテゴリーの場合  
中国短大 ○近藤信子 鳴門教育大 藤原康晴

目的 第1報、第2報に続いて、本研究では、流行衣服の採用者を3つのカテゴリーに分類して測定した場合について検討した。

方法と結果 1993年11月に女子短大生180名を対象に調査を行った。流行衣服の採用者をカテゴリー化する自己評価アイテムが、「まわりの人よりもかなり早い時期に採用する（EA）」、「まわりの多くの人を採用するようになってから採用する（EM）」、「流行しているという理由で衣服を購入することはない（LA）」への回答によって対象者を3つのカテゴリーに分けた。次に、流行衣服に関する行動を測定する18項目（5段階）、流行に対する態度を測定する15項目（5段階）について、各項目への反応の合計得点が、上記のカテゴリーに分類される採用者によってどのように異なるかを分散分析した。その結果、流行衣服に関する行動、流行に対する態度とも、3カテゴリーに分類される対象の合計得点には違いがあり、LA→EAにしたがって、衣服の流行に志向した行動をしており、また、流行に対して好意的態度を示す傾向がみられた。EA～LAの各合計得点の多重比較を行ったところ、EAとEM、EMとLA、EAとLAの平均値間に違いが認められた（ $p < 0.05$ ）。さらに、EA～LAと流行衣服の購入状況（4段階）とのクロス集計を行ったところ、LA→EAにしたがって、流行衣服の購入回数が多い傾向が示された。